第50巻　第4号　予告

特集：「健康日本21」　―その方法論―
医療計画と健康日本21の政策構造……河原　和夫
「健康日本21」を地域で生かすために；地方からの発言……櫃木　真聿
地方計画をどう作るか
「健康日本21」地方計画策定について～埼玉県における新たな
「健康づくり行動計画」（仮称）策定経過……田中　久子
健康日本21の市町村計画をどうつくるか……尾崎　米厚
健康日本21における情報収集・モニタリング体制の方法と課題……川南　勝彦

編　集　後　記

私たちは忘れることができない平成13年9月11日を迎えました。テレビで繰り返し写し出されるアメリカのツウィンの貿易センタービルの崩壊を目のあたりにして，「これはフィクション？，いやノンフィクションなのだ」と何度も言い聞かせながら事実を受け止めたのではないでしょうか。信じていた安全と安心が揺るがされました。でも，この感覚は近代化を進めた欧米の文化や価値をあまりに基盤としていた者が感じることなのかもしれません。このことを通して，地球上には様々な理念や価値があること，また，日々，安心も安全も保証されずに生きている人々があまりにも多いこと，そして改めて公衆衛生は安全と安心に関わるものであることを思い知らされました。

本号の「いわゆるシックハウス問題に関する公衆衛生学的対応」は，建築衛生学部が中心となり，日々の生活の安全と安心を最も身近で提供する住まいの問題を公衆衛生学的に取り上げています。また，今回の取り組みの特色は，この公衆衛生研究において現場の保健所との双方向のコミュニケーションをスタートしたことではないでしょうか。これも新らしい地で再スタートする公衆衛生院そして新たな公衆衛生のあり方を示唆された思いです。さまざまな閉塞感にさいなまされながらも，新たな地平に立ち進める予感を与えられました。

平野かよ子（公衆衛生看護学部）